

2024年4月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



開館35周年記念 「春灯会」

3月2日(土)の夜、武石ともしび博物館では、開館35周年記念イベント「春灯会」が開催され、家族連れなど約250人が訪れました。

館内には、武石の保育園、児童館・学童保育所の園児、小学生や、上田市内と長和町の保育園・幼稚園の園児たちが書いた絵を使った“こどもランタン”が350個ほど並び、やわらかいローソクの灯りが通路を照らしていました。通路では、自分で書いた絵のランタンを探す親子連れの姿もありました。

庭園の池の周りには、灯りで描いた「願う」の文字とともに能登半島地震被災地に向けた応援メッセージが掲げられました。

また、とん汁の無料サービスや「つなぐ家」さんの駄菓子販売、武石に関するクイズを解きながら館内を巡るクイズラリーなども行われました。



伝承館では、小諸市のハーモニカ演奏者「かつくん」の演奏会がありました。多彩なハーモニカの音色とオルガニート(カード式の手回しオルゴール)の優しい音色が場内に響き、「かつくん」の演奏に合わせてお客さんも一緒に歌う場面もあり、会場は穏やかな空気にあふれていました。

(ともしび博物館は平成元年(1989年)武石村発足100周年を記念して建設されました。)

子育て文化教育事業 「冬のイベント」を開催

つくる会子育て教育文化部会・健康福祉体育部会は2月20日(火)武石地域総合センターホールで「冬のイベント」を開催しました。これは子供と大人、また大人同士がゲームなどを通じて笑顔で交流できることを目指し開催したものです。

武石保育園星組園児12名のほか、武石シニアクラブ、デイサービスやすらぎ利用者や社会福祉協議会、つくる会の部会員など全部で60名ほどが参加しました。

ハーモニカクラブ「ハーモニーたんぽぽ」の演奏や園児が先生になっての体操、ゲーム(パタンクや魚釣りゲーム)などを園児と高齢者が一緒に楽しみました。

園児たちが帰園するときは、大人とハイタッチし「また来るからね」と元気な声が聞かれました。



武石芸能祭5年ぶりに開催

2月25日(日)、武石総合センターホールにおいて、芸能祭が5年ぶりに開催されました。

芸能祭は、主に公民館利用活動団体の発表の場として以前は午前午後に分けて開催されていましたが、武石公民館の解体工事やコロナ禍で休止されていました。この間でクラブ数が減少したことなどもあり、今回は午後だけの開催となりました。

美ヶ原飛竜太鼓から始まり、合唱、詩吟、キッズダンス、舞踊など12組により日頃の練習の成果が披露されました。



お便り届いたよ

武石小学校は、開校150周年記念事業として昨年10月28日に音楽会をメインとした記念行事「150歳お誕生日会」を行い、その最後に全校児童143人がバルーンリリース(風船に手紙を載せ飛ばすこと)を行いました。子供たちは、将来の夢や武石の良いところを書いた手紙をバルーンに載せました。

このバルーンが2週間ほどして発見され、それぞれの方から武石小学校にお便りが届きました。発見されたのは2年生の書いたもの1通と、4年生のもの3通の計4通で、すべて埼玉県内から、2週間で約100kmを飛んだこととなります。

発見された皆さんからは、野球やサッカー選手になりたいという子供たちの夢への応援メッセージや、自分のところへ飛んできたことへの運命的なものを感じるなど心温まる内容で、子供たちもまたお返事を書きました。



武石小学校は、明治7(1874)年3月に麗正学校、4月に化風学校が開校されたことが基となっています。明治5年に学制が公布され、それまで武石地域に9あった寺子屋や私塾が廃止されて地域の共同の学校をつくることとなり、麗正学校は上本入郷倉(穀物の倉庫)を使った本校と3つの支校、化風学校は信廣寺に設置されました。当時248人の児童が在籍したとされています。その後通学の問題や地域の民情などにより何度も分離・統合など紆余曲折を経て現地の武石小学校となり、2023年に150周年を迎えました。

武石小学校の現在の校歌は昭和38(1963)年に開校90周年を記念してつくられ、現校舎は100周年を機に改築が発案され、昭和49～51年に建設されたものです。

「乱橋」にベンチ設置

つくる会が進めている武石八景案内板設置事業の一環として、雲溪荘に行く途中の小沢根川河童橋の「乱橋案内板」脇にベンチを設置しました。休憩にご利用ください。

郷土史家 児玉卓文

島崎藤村が自分の子供たちのために書いた童話『ふるさと』(大正9年刊)に次のような話があります。

55 少年の遊学 父さんは十の歳まで、祖父さんや祖母さんのひざもとに居ましたが、その年の秋に祖父さんのいいつけで、東京へ学問の修行に出ることになりました。父さんは友伯父さんと一緒にお家の伯父さんに連れられて行くことになりました。—略—

67 山越し やがて、父さんは伯父さんに連れられて、「みさやま峠」という山を越しにかかりました。父さんも馬籠のような村に育った子供です。山道を歩くのに慣れてはいます。それにしても『三才山峠』は見上げるような険しい山坂でした。—略—

68 沓掛の温泉宿 今だに父さんはあの「みさやま峠」の山越しを忘れません。くたびれた足をひきずって行きまして、日暮れがたの山の裾のほうにチラヘチラと燈火のつくのを望んだ時の嬉しかった心持を忘れません。その燈火のついているところが、沓掛の温泉宿でした。

69 乗合馬車 沓掛まで行きましたら、ようやくその辺から中仙道を通う乗合馬車がありました。—略—



三才山峠頂上付近から、眼下の内村谷を臨む

藤村が峠を越えたのは、明治14年ですが、明治維新以後、東京への交通が増加すると三才山峠は松本から東への主要道路となっていました。

『ふるさと』には藤村の記憶違いがあるようです。

三才山峠を暮れ方に越え、山裾の方に灯りが見えるとなると、泊った宿は沓掛温泉ではなく鹿教湯温泉と思われます。また、「その辺りから中仙道・・・」は北国街道の間違いですが、北国街道の沿線では、小諸町に馬車会社ができ軽井沢～長野間を走ったのが11年、上田町に2台の乗合

馬車が置かれたのは16年ですから、「乗合馬車があり」も誤りと思われる。

藤村が小諸義塾に着任したのは明治32年4月、詩人から小説家に転身しようと33年頃から、千曲川一帯の風物やそこに働く人々の生活を細かに書き記しました。『破壊』、『春』、『家』で小説家藤村の名が不動のものとなった大正元年、『千曲川のスケッチ』が発表されました。

亭主は望遠鏡まで取り出して来て、あそこに見えるのが渋の沢、その手前の窪みが霊泉寺の沢、と一々指して見せた。八つが岳、蓼科の裾、御牧が原、すべて一望の中にあった。層を成して深い谷底の方へ落ちた断崖の間には、桔梗、山辺、横取、多計志、八重原などの村々を数えることが出来る。白壁も遠く見える。千曲川も白く光って見える。

同書の『山の上の朝食』の一節です。藤村は夷講の翌日、同僚の歴史科の教師W君に誘われて浅間山中腹の清水の山小屋に登り、その翌朝の様子を記しました。「多計志」は武石と思われます。



小諸市飯綱山公園から西方、依田窪方面を望む

藤村の友人の『蒲団』で有名な田山花袋は、小諸へ藤村を訪ねていますが、武石峠を越えたことがあるらしい。武石峠の茶屋あとに、松本市本郷地区が建てた碑と説明があります。

今もなおありやあらずや信濃なる
峠の上にわが見たる茶屋

説明文には、「花袋は明治20年代に浅間温泉に泊まり、武石峠を越えた。大正時代になってこの歌を作った」とあります。花袋は紀行文で、三度筑摩郡と小県郡を歩き来したとしていますが、その内の一回は保福寺峠越えで、あとの二回は不明です。武石峠を越えたとすれば、おそらく武石で宿をとっていると思うのですが・・・。

武石を盛り上げる
人やグループ紹介

武石の人 団体



美ヶ原高原美術館／道の駅美ヶ原高原

支配人 塩之入 俊文さん

美ヶ原高原美術館は、1981(昭和56)年6月、ビナスライン全線開通にあわせ、箱根・彫刻の森美術館の姉妹館として誕生しました。

美ヶ原高原からの大パノラマを背景に、国内外から集められた350点あまりの現代彫刻作家の作品を、約4万坪の草原に展示する日本で数少ない屋外彫刻美術館です。

また、美術館併設のレストラン、売店は、2007(平成19)年8月に「道の駅美ヶ原高原」として新装オープン、「日本一高い位置にある道の駅」としてテレビなどでも取り上げられています。

美術館には、4月下旬から11月上旬までの開館期間中、約5万人の入館者があり、道の駅の利用客も含めるとシーズン中におよそ20万人の来場者があるとのこと。



観光客で賑わう美ヶ原高原駐車場(2023年10月)

美ヶ原高原美術館は、箱根・彫刻の森美術館と同じ、公益財団法人彫刻の森芸術文化財団が運営をしています。道の駅美ヶ原高原は、公益財団法人彫刻の森芸術文化財団が登録申請をし、(株)フジランドがレストラン、売店の運営をしています。

(株)フジランドは、フジサンケイグループで飲食、物販などの事業を行っている会社です。

従業員数は、美術館と道の駅を合せて20人ほどですが、最盛期のお盆前後の8月中旬には10～15人のアルバイトをお願いしていて、最大35名前

後になるそうです。従業員には武石地域の方もおられ、アルバイトには武石地域の高校生の皆さんがたくさん働いているとのこと。

「現在、様々な問題を抱えていますが、美ヶ原高原の観光の核となるように、美術館(野外彫刻)と道の駅が融合したアートパーク的な場所にしたいと考えています」と塩之入さんは話していました。



作品名：スズメラウツノニタイホウモチダス

眼下(写真中央左)に下本入から沖までの武石地域を望む

「武石地域の皆様に支えられ、今年で開館から43年目を迎えることができました。今後ともご愛顧のほどよろしく願い申し上げます」とのメッセージをいただきました。

今シーズンの開館は、4月27日(土)です。

四季折々の高山植物と壮大な展望を背景に、現代彫刻を鑑賞する芸術散歩はいかがでしょうか。

美ヶ原高原美術館

開館期間：2024年4月27日～11月4日

開館時間：9：00～17：00

問合せ先：0268-86-2331(代表)

上田市武石上本入美ヶ原高原
www.utsukushi-oam.jp